5-4

活動プログラムの質の向上の取り組み

利用者が主体的に参加できるプログラムを目指して

意識改革

笑顔

デイサービスセンターはなはた

発表者：介護職員 五十嵐 正樹	
所在地：東京都足立区花畑4-39-10	
TEL：03-3885-4864	E-mail：sinseien@seifuukai.or.jp
FAX：03-3860-0950	URL：http://www.seifuukai.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	平成元年開設。特別養護老人ホーム・地域包括支援センター・ケアマネジメントセンターを併設している。一般通所介護・介護予防通所介護：定員35名/日 認知症通所介護：定員12名/日。行動指針として「明るい挨拶 明るい笑顔 ～わたしの笑顔は、あなたの笑顔～」を掲げている。
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 常勤職員のみで企画を決めており、利用者のニーズを反映したり、職員一人一人が持っているアイデアや能力を活かせておらず、活動内容もマンネリ化していた。○ プログラムの企画、準備が十分に時間がとれず、場当たり的な実施になってしまい、プログラムの目的や効果まで意識して実施できていなかった。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ デイサービスの目標の設定<ul style="list-style-type: none">・ 21年度の事業計画で、利用者サービス向上の一環としてプログラムの質の向上を掲げる。○ 職員担当制<ul style="list-style-type: none">・ プログラム運営グループを作り、職員全員が携わる体制にした。 ※運営グループは常勤職員がそれぞれリーダー入り、職員3名で1グループとした。・ 年間の担当枠を決め、それに合わせて各グループでミーティングを開催し、企画決定や準備、実施、評価を行う。 ※ミーティングは、プログラム毎に必要な人数を見直し、リーダーが勤務時間内で予定調整し、開催時間を確保した。○ プログラム内容の充実<ul style="list-style-type: none">・ プログラム企画書を活用し、内容をよく検討した上で実施し、次につなげるための評価を行った。	<ul style="list-style-type: none">・ 各グループの取り組みで良いものを共有していくようにした。・ プログラム提供スキル向上のための社内研修開催に向け、調整を図った。 <p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 職員ひとりひとりにプログラムを運営するという責任意識が高まった。○ 非常勤職員からのアイデアが出にくかったが、全員参加にしたことで、潜在的なアイデアや能力が活かせ、プログラムの幅も広がり、質の向上につながった。また、職員のモチベーションも上がった。○ グループ毎でミーティングを持つことで、各分野の目的や効果を意識したプログラムや、長期的な計画のプログラムを作成・提供できるようになった。○ 職員一人一人が意識を持ってコミュニケーションをとるようになったことで、企画・準備・実施・評価の流れをスムーズに行うことができた。○ 時間や人員配置を効率的にするという意識が高まった。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ まだ取り組み始めたばかりで、手探りの状態。今後、毎回の評価を活かしながら、プログラムの質の向上につなげる。○ 企画段階から利用者の意見を反映し、一緒に作り上げていくプログラムや一日を通して楽しめるプログラム作りをしていく。○ 研修会を今後も継続的に行い、スキルアップにつなげていく。
--	---

【メモ欄】